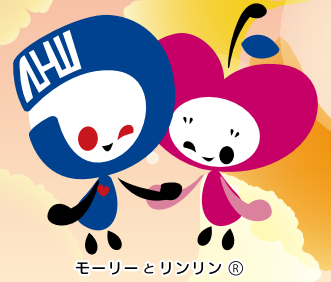


Campus Magazine



令和元年8月3日(土)

ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊学生ボランティア参加



感想 学生ボランティアリーダー

ボランティアとはいえ、かなり専門的なことについても学べる機会であるため、まだ「看護観」「福祉観」が確立する前に、純粋に人として成長できるチャンスでもある。自分たちが課せられた仕事の複雑さ、調整の大変さを身に染みて感じた。(統括)

全員が指示された仕事に対して懸命に働いていた、時間をしっかり守ることが出来た、参加者さんと会話することが出来た、などの意見が出た。これらは、一人ひとりがボランティアとしての責任感をもって臨んだ結果なので、来年以降も続いていけばよいと思う。(備品班)



終わった後、学生同士で「楽しかった」等の発言が多かった。車椅子の方が、ねぶたが始まった時から笑顔になっていた。参加者の方と話すことができた。(運行班)

青森の人のねぶたに対する熱い思いや誇り、楽しんで取り組んでいる様子を間近で見て肌で感じる事が出来た。また、全国から集まった障害を抱えた参加者のみなさんがねぶたを楽しみにしており、毎年参加しているリピーターの方が多いことに驚いた。じょっぱり隊に参加し、とても貴重な体験ができたと感じている。(運行班)



全体を通してみると、皆積極的にボランティアに参加してくれていて、円滑に進めることができていた。自分の仕事が終わった後も自分から役割を見つけ、率先して行動できていたと思う。「おいしかった」と言われるのが嬉しかった。最後まで協力してでき、笑顔が多く見られた。(食料班)

設営班はどうしても待ち時間が多くなってしまいますので仕方ないと思った。設営班は現地にいき臨機応変に対応するということが多く、上手く対処できていた。(設営班)

サークル活動

キャリアサポート研究会

こんにちは！キャリアサポート研究会、通称キャリサポです。私達は高校生のキャリア形成のサポートをメインに活動しています。

実際に高校に行き、高校生と話し、高校生の本当の自分・なりたい自分について一緒に考えています。キャリサポの最大の特徴は青森県内の他大学との関わりが深いことです。弘前大、東北女子大、青森公立大、青森大、中央学院大などの他大学生と関わり、自分自身の視野拡大や成長ができます。高校でのワークショップだけでなく、大学生同士の花見やスポーツ大会などのイベントがあります！

やりがい、楽しさ溢れるサークルです！お待ちしております！



ボランティアサークル「めいと」

現在ボランティアサークルめいとでは、45名がボランティア活動に参加しています。めいとサークルでのボランティア活動として、知的障がいのある方へのパソコン教室やスポーツ大会の運営サポート、献血普及ボランティア、みんなの食堂(子ども食堂)などがあります。メンバーの所属する学科はそれぞれですし、対象となる参加者さんや、利用者さんもそれぞれですが、ボランティアに参加して得られるやりがいや楽しさは同じだと思っています！

めいとサークルのボランティア活動はボランティアがある度に募集をしています。最初は1つのボランティアからでもいいので、興味のあるボランティアに参加してみませんか？



バレーボールサークル

バレーボールサークルは、月・金曜日の週二日で男女混合の試合形式で活動しています。バレー経験者から大学に入ってから初めての人までおり(現サークル員95名なお普段は20名程度で活動)、毎回楽しく活動しています。また、サークルへの参加も自分の意志で決められるので、バイトや勉強などで忙しい時でも自由に休むことができます。1年生から4年生まで、4学科それぞれにサークル員がいるため、勉強や実習などの相談相手を探す場にもなっています。

現在対外試合などは行っていませんが、春は新入生歓迎会、夏はキャンプ等春夏秋冬それぞれにイベントがあり1年を通して楽しめます！

興味がある人はぜひ体育館までお越しください！



テクニカルダンスサークル



私たちテクニカルダンスサークルは、学内、学外さまざまなイベントに参加して来ました。今年から新たにHIPHOPをジャンルに加え、JAZZ、BREAK、LOCKの4ジャンルの新体制で活動を始め、自分たちが楽しみつつ、さらに見ていただく方々にも楽しめるようなパフォーマンスを届けられるように日々活動しています。夏休み期間は、毎年恒例となった大学祭でのショーに向けて、学年、学科の壁を超えて共に練習に励みました。そして大学祭本番のショーでは、1日目、2日目とも沢山の方々に足を運んでいただき、運営の方々のご協力もあり無事成功させることができました。OB、OG、保護者の皆様からも沢山の応援をいただき、とても感謝しています。また、今までお世話になった四年生への動画サプライズも成功し、サークルの絆が更に深まった最高の大学祭になりました。これからも伝統を受け継ぎ、さらに進化して活動していきます。是非テクニカルダンスサークルの活動に注目していただければと思います。

芸術研究サークル「Porta」



芸術研究サークルPortaは昨年春に発足しました。2年目を迎え、現在は27名となり、毎週月曜日に活動しています。

活動内容は幅広く、小説・絵・手芸など、各サークル員の興味のあるものを自由に行っています！内容に縛りは設けず、「趣味の延長」のような感覚で楽しみながら活動しています。毎年1回、大学祭にて教室を借りて作品展示を行っており、自分の作った作品を発表する場も設けています。そして、今年は新たに「作品販売」も始めました！新しいサークルなので、今後も様々なことに挑戦していこうと考えています！趣味で色々作っているけど誰かに見てほしいな、同じ趣味を持つ人と話してみたい、など少しでも興味のある方はお気軽にお越しください！

児童福祉研究会「こどもくらぶ」



私達児童福祉研究会(通称：こどもくらぶ)は青森市内の小中学生から中学生の子どもを対象に、学習支援や各種イベントを通じた学生と子どもの交流事業を行うほか、保護観察所が中心になり実施しているBBS会(Big brothers and Sisters Movement)への協力、弘前大学「Teens&Low」との交流イベントなどを行っております。

毎週土曜日の午前中、青森市内の施設をお借りして活動しております。子どもとの継続した関わりによって子どもの成長が見られることがこのサークルの魅力ではないかと思えます。団体名に「福祉」とあるため、社会福祉系のサークルと思われがちですが、現在看護学科と栄養学科のメンバーもおります。随時見学を受け付けておりますのでメンバーまでご連絡ください！

オープンキャンパス

8月9日(金)に「オープンキャンパス2019」を開催しました。県内外から多くの方々にご来場いただき、キャンパスは熱気に包まれました。オープンキャンパスは保健大学を目指す皆さんにホームページや大学案内では分からない教育や研究など体験的に理解していただくために毎年開催しています。今年度は初の試みとして中学生ブースを設け、各学科が目指す専門職の魅力を説明し、来場者が在学生や教員の話に熱心に耳を傾ける姿が見られました。アンケートでは、「将来を考えるいい機会となったと思う。」や「ますます、この大学に興味があった。」などのコメントを中学生の方からいただき、進路選択のきっかけ作りができました。

◆オープンキャンパス2019の様子◆



看護学科：人形を使って赤ちゃんのお世話を体験する様子



理学療法学科：テーピングの巻き方を体験する様子



社会福祉学科：社会福祉に関するミニ講義の様子



栄養学科：人工イクラを作っている様子

大学祭2019

今年の大学祭は、前夜祭も含め10月11日(金)、12日(土)、13日(日)の3日間にわたって開催いたしました。

土曜日・日曜日ともに台風の影響で屋内のみでの開催となりました。

天候に恵まれず中止の可能性や急な日程変更などもありましたが両日開催し、無事大学祭を終えることができました。

今年度は例年の企画に加え、同窓会主催で昨年度大好評だったマグロの解体ショー及び振る舞いを今年度も行うことができました。悪天候の影響でご来場いただけなかった方を思うと非常に残念ではありますが、企画については学生だけでなく地域の方にも楽しんでいただけたのではないかと思います。

大学祭の運営に協力して下さった皆様、ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

大学祭実行委員長 昆野太雅



就職活動支援

就職活動セミナーでは、外部講師による「ビジネスマナー」、「自己分析」、「応募書類の書き方(志望動機)」、「面接の受け方」等のレクチャーを行っています。学年あるいは学科に分けて年に13回開催しています。

また、学科毎に卒業生を招き、現在の仕事や職場のこと、就活のコツを伝授してもらう「就職ガイダンス」はどの学科も好評で、ガイダンス後は卒業生が在學生に親身に個別相談に応じています。さらに、年に3回、本学主催による就職説明会を開催しており、200ヶ所以上の事業所が参加します。他にもハローワーク出張相談会や公務員試験対策学内講座など、学科や職種に応じたきめ細やかな支援を行っています。



1年生「専門職に携わる者としての心がまえ」7/8開催 看護学科就職ガイダンス(7月24日開催)

国家試験対策(理学療法学科)



理学療法学科では、卒業までに規定の単位を取得すると理学療法士の国家試験受験資格を得ることが出来ます。合格率は開学時から昨年度まで全国平均より高い水準を保っています。この結果は学生自身の努力の賜物といえます。

現在、理学療法士教育および医療水準の変化により、国家試験で出題される範囲も解剖生理学や運動機能学などだけでなく、理学療法過程を基に判断する状況設定問題と多岐にわたっています。

本学科の具体的な支援として、過去問題集の整備や受験勉強のための部屋の提供のほかに、5回以上実施する模試への参加勧奨、その結果を基に行う教員による個別指導などが高い合格率につながっていると思われ、今年度も続けていきます。

COC+事業「女子学生のキャリア支援プログラム」の取組

平成27年から弘前大学が代表校で「オール青森で取り組む地方人財育成・定着事業」が展開されています。本学も協定を締結し、「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」のリーダー校として、他大学とともに事業に取り組んでいます。本年の主な活動を述べます。

- 学生向けセミナーは、卒業生の働く経験を聞き、自分のキャリアの方向性を探る「くらす[?]はたらく」プログラムを、6月28日(金)に1年生28名がキャリアデザイン科目にて履修しました。人生の先輩である卒業生と情報交換ができ、働く意義について考える充実したセミナーだったと好評でした。
- 青森県委託事業として県内の企業等における、働き甲斐のある職場づくりに向けた機運の醸成を図り、青森県への人口定着に結びつけていく「青森県多様性のある職場づくり推進連絡会議」を立ち上げました。第1回は7月17日にキックオフミーティングを、第2回は10月25日に「産官学金」の企業等構成員と活発な意見交換をし、今後につながるものとなりました。第3回は2月を予定しております。
- 「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」を11月22日(金)に開催予定です。今後も意欲的に事業展開していきますので、ご注目いただけますと幸いです。



「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」のチラシ



「session4 ~ライスワーク[?]ライフワーク~」の様子



「第1回青森県多様性のある職場づくり推進連絡会議」の様子

将来、専門分野での職業人として働きたいとお考えの皆様へ、また、今は卒業して専門職として働いているが、社会人として学び直しをしたいという皆様へ、さらなる専門知識と研究力を身につけることができる本学大学院をご紹介します。

(1) 多職種との連携や専門分野を超えた学際的研究をめざす大学院

「保健・医療・福祉政策システム」、「対人ケアマネジメント」、「基礎研究・実用技術」の3つの研究領域を設け、自分自身の研究テーマを持ちつつ、多職種との連携をより意識した学びを深め、健康課題を的確に解決できる能力を養成します。

(2) 「がん看護専門看護師」を養成する大学院

県内で唯一のがん看護のスペシャリストの養成コースを開設しています。このコースでは、がん医療に関わる高度な実践能力を養います。

(3) 社会人が働きながら学べるカリキュラムを提供する大学院

講義や演習科目については、自らの研究課題やキャリアパスに応じて柔軟に履修できるようにしています。社会人が働きながら学べるように土日や夜間の授業も開講しています。

研究室のご紹介 大学院の研究室では、どんな研究活動が行われているのでしょうか。一部をご紹介します。

保健・医療・福祉政策システム領域／看護システム研究室 教授 鄭 佳紅

看護システム研究室は、看護ケアの質の向上のためのしくみについて探求します。当研究室の教員は、これまで、「看護ケアの質評価と改善」について研究に取り組んできました。現在も、病院を前提とする病棟単位の看護ケアの質評価・改善システムの運用を行っています (<http://nursing-qi.com/>)。

当研究室では、現在6名(博士前期4名, 博士後期2名)の大学院生が、それぞれの研究テーマに取り組んでいます。例えば、看護管理者(看護師長)のコンピテンシー(高い成果を出す者の行動特性)に関する研究や外来における看護実践に関する研究、看護師等の人材育成に関する研究などです。社会人としての実践の傍ら学ぶ院生がほとんどですが、在学中の院生はもちろん、時には大学院修了生を交えて意見を交わし合い、看護ケアの質向上を目指しています。



ゼミ合宿のひとつ

対人ケアマネジメント領域／老年看護学研究室 教授 福岡 裕美子

当研究室では、現在3名の大学院生が仕事をしながら学んでいます。研究テーマは、院生が仕事の中で疑問に思ったことやご自分の家族の介護状況から見てきた課題などです。現在、認知症高齢者の親を介護した実の息子の介護に対する受容過程、訪問看護師の職務満足に関すること、訪問看護師と訪問介護に携わる専門職の各自が考える専門性とは何かということに関する研究が進行しております。これらの研究結果から得られた示唆が、看護や介護の現場に還元できればよいと思っております。



ゼミ開始前の様子

基礎研究・実用技術領域／パーキンソン病研究室 教授 神成 一哉

私の主催するパーキンソン病研究室では、神経難病のひとつであるパーキンソン病によくみられる転倒の危険性を評価し、転倒を減らす方法を研究しています。今年度から博士前期課程の学生として小関紗矢佳さんが研究室に参加し、私とともに研究を始めています。彼女は青森県内の病院に理学療法士として勤務しながらの院生で、鉄道を利用しての大学通学なので、時間繰りには苦心しているようですが、意欲をもって研究に取り組んでくれています。現在はパーキンソン病患者の姿勢反射障害(外乱による転倒のしやすさ)を評価するプルテストの定量化を実現すべく、卒業研究の学生さんと協力して研究を進めているところです。



姿勢反射障害の定量実験
(右から2人目が小関さん)



お知らせ 大学院担当教員の「研究室」紹介については、こちら ⇒



保健大学の「世界に向けて!」の活動

本学の5つの「使命」のうちのひとつに「グローバルな視野をもって活躍できる人材の育成」があります。その取り組みの一つとして、本年9月にはベトナム国ナムディン看護大学との交流事業として、本学栄養学科学生の短期研修を初めて行いました。

ナムディン看護大学は、ベトナムの首都ハノイから100km程東にあり、昨年9月に栄養学科を新設しました。そこで今回、本学栄養学科2～4年次の5名が9月11日～14日にナムディンを訪問し、新2年生15名とともに、両国での栄養の取り組みなどについてグループワークを中心とした学習を行いました。その様子を、参加者の一人である栄養学科2年生の大和拓夢君の報告から抜粋してお伝えします。

●参加理由●

海外の学生と日本、ベトナムの栄養問題について話してみたかった。

●研修内容●

1日目: 大学構内を案内していただき栄養学科や看護学科の教室、学食、学生寮などを見学した後、セレモニーや大学紹介等があった。その後、研修前に準備した英語のスライドで自己紹介を行い、グループに分かれてディスカッション課題に取り組んだ。

2日目: プレゼント交換、集合写真撮影後、双方の先生方の講義を受けた。午後は、発表用スライドと原稿を英語・ベトナム語で作成した。疑問に思ったことは英語で質問して理解を深めた。夕方遅くまで発表やディスカッションを行った。とてもハードな一日だった。

3日目: 現地の学生に歴史のあるお寺などを案内してもらい、ナムディンの歴史と文化に触れた。この計画は事前に連絡を取り合って決めていた。その後、お昼を食べながらカラオケなどで楽しく盛り上がった。

●研修の感想●

ベトナムでは栄養士制度が未発達であるが、ナムディンの学生は、日本の学生以上に真剣に栄養学について学んでいたのが印象的だった。そのことで、私もさらに栄養学について学びたいという意欲が湧いた。ナムディンの学生は、日本の給食制度や食育に興味津々であった。研修に行く前は、現地の学生と仲良くなれるか不安であったが、言語が伝わらなくても互いの表情や仕草でなんとなく意思疎通をすることができ、歌や写真撮影で親睦を深めることができた。

初めての海外であったが、ベトナムの人たちは優しく、料理もとても美味しかった。ナムディンの学生に対して感心したことは、自分と同じ年なのにともしっかりしていて、またフレンドリーでたくさん話しかけてくれたことが嬉しかった。今後ナムディンの学生が青森に来ることがあれば、私達が受けた以上にもてなしたいと思った。そのためにも、青森のことを勉強し、英語も今以上に話せるように勉強したいと思った。



自己紹介の様子



グループディスカッションの様子



寺院での記念写真

新入試枠のご紹介 看護学科地域定着枠(キャリア形成支援枠)入試について

青森県は、地域包括ケアの実施のために地域医療構想を掲げ推進しています。これは、病気になったり不自由になった方を住み慣れた地域丸ごとで支え、急性期病院、療養やリハビリを得意とした病院、病気の推移を見守る診療所や在宅看護が連携して支える仕組みです。連携のためには、それぞれの場を熟知している看護師が必要です。このため、地域医療に“強い”看護師を育成するため、地域定着枠(キャリア形成支援枠)を新設し、来年から募集を開始します。看護学科の推薦入試の際に、5名を募集します。入学した学生さんは、キャリアサポートコーディネーターの支援を受けながら、県内の看護を体験しながら就職先を決定します。就職したら、まずは急性期中核病院で数年勤務した後、回復期医療、慢性期・在宅医療を経験し、再度中核病院に戻ります。この間もコーディネーターの支援を受け、地域に強い看護師に育っていきます。現在、病院の連携準備を行っているところです。詳しいことはホームページをご覧ください。地域の健康課題に愛を持って真剣に向き合うことができる方を求めています。



地域定着枠入試については
こちら →



保護者等（後援会）懇談会



斎藤後援会長からの挨拶

今年度は大学祭初日の10月12日(土)に開催され、39組51名の保護者の皆様にご参加いただきました。

最初の全体会では、学長ほか本学の主な教員からカリキュラムの概要や学生生活支援、就職支援状況等及び大学院の概要について説明をさせていただきました。

次の学科別プログラムでは、各学科の特色を踏まえた教育内容、学生生活及び就職に関する支援の状況等について説明をさせていただきました。

最後の個別相談会では、それぞれの学科の教員が保護者の皆様からのご相談を個別にお受けしました。

ご参加いただいた皆様との対話を通じて、今回の懇談会が保護者の皆様と本学との相互理解を深め、本学の今後の教育研究活動と学生支援のあり方について共に考える貴重な場となりましたことを深く感謝申し上げます。



全体会の様子(壇上は上泉学長)

ヘルスリテラシーコラム

農林水産大臣賞の受賞について

本学が「健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート宣言」をしてから早5年、その取り組みにも、実りが見え始めています。当初より本学学生と教員で構成する「健やか力向上サポート活動」を進めてきましたが、その一つである「おかず味噌汁健やか力向上委員会」の活動が、農林水産省が主催する「第3回食育活動表彰」において農林水産大臣賞を受賞しました。

同委員会は、地域課題の一つでもある減塩の推進や野菜摂取量の向上につなげることを目的に、手軽に調理でき、おかずともなり得る具沢山の味噌汁の普及活動を行っているチームです。学内外で試食提供を行っており、味や彩り、栄養バランスについて大変ご好評いただいております。

6月に山梨県で開催された表彰式には、副代表の栄養学科2年 葛西志保さんが登壇しました。また、代表を務める社会福祉学科4年 栗本楓佳さんは、東北農政局が主催する「第2回食育セミナー」でチームの活動内容を発表するなど、本学が進めている健やか力（ヘルスリテラシー）向上の推進に大いに寄与してくれています。8月には、三村申吾青森県知事を表敬訪問し、受賞報告と今後の展望をお話することもできました。

健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート活動は本学が息長く続けていく取り組みですが、今回の受賞は大変励みになりました。このような活動を一つずつ積み重ねることで、今後も地域の健やか力向上に資する人材育成に努めてまいります。



表彰状を受け取る葛西さん(写真右)



おかず味噌汁の一例「ピリ辛！具沢山味噌汁」
開発したレシピは100種類を超える

学内ホームページ「ほすこやかナビ」でヘルスリテラシー活動を紹介しております。ぜひ立ち寄ってみてください。

このバナーが目印です！→



ほすこやかナビ
についてはこちら ⇒



発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



青森県立保健大学

〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1 電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.auhw.ac.jp/>